



# ひびき

◆ゆたかなかわりを求めて  
夢や希望をもち  
未来をひらく子ども

## 授業研修

校長 渡邊 芳久

2学期は、私たち一小職員が授業研修を行うピークの時期です。

1学期間に見取った子どもたち一人一人のよさ（個性）を生かしながら、更なる成長の願いをかけて、授業を構想します。

授業は、およそ次の順で構想していきます。

- 1 学校の年間指導計画に基づき、学習指導要領を読み解き、求められている目標・内容を理解します。
- 2 学級の子どもたち一人一人のよさ（個性）と学校の校内研修計画、学習指導要領で求められている目標・内容を照らし合わせ、単元・題材の指導目標・指導内容を設定します。
- 3 設定した指導目標・指導内容と照らし合わせながら、教材（授業で学ぶ対象となるもの・人・こと）及びその活用方法（主たる支援）と単元の指導計画（子どもたちが単元・題材の目標の達成に向かって追求していく道筋のこと。通常は1時間単位の指導目標・指導内容・学習内容と方法・それを支える支援）を構想します。
- 4 授業研修で授業を公開する場合は、単元の指導計画の中で、その単元の山場となる1時間の細かな授業計画を構想します。

この構想順は、ストレートに進むものではなく、行ったり来たりを繰り返しながら構想し続けます。

また、一小では、各学年や学年部を単位に協議、検討しながら単元をつくりあげていきますので、大変な時間と労力がかかります。

さらに、実際に授業を進めていく中では、子どもたちの追求によって、構想した追求の道筋とは違った授業展開となることもあります。

もちろん、そのことは事前に想定しつつも、毎時間毎時間毎に授業構想の修正が必要になってきます。

日々のこのような営みが、毎時間の授業や授業研修としての授業公開を支えています。

授業は、子どもと教師と教材とが関わって営まれるものであり、学校生活の中で占める時間の割合は、当然ながら一番です。

私たちは、あの新型ウイルス禍の中でも ICT 機器を活用するなどの工夫をし、授業研修の歩みを止めませんでした。そしてそれは、もちろん現在も進行中です。

授業研修は、教師の子どもを見取る力を高め、教師の授業力を高めます。

教師が子どもを見取る力を高め、授業力を高めることで、子どもの日々の学校生活の質が高まります。

ですから、授業は教師の仕事の中核なのです。